
この世界はループしている！

へろへろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この世界はループしている！

【Nコード】

N9729Y

【作者名】

へろへろ

【あらすじ】

学校一の美少女に呼び出された主人公はループする時間から脱出する為にループの原因を探る。

果たして、一体何が、誰がループさせているのか？

多分、青春とかそんな話。

ゴメン、待った？

「遅れてごめん。待った？」つぶれた声が音楽室に響く。

学校一の美少女と謳われる彼女、海老川椎奈えびかわしいなはこちらを見て微笑する。

濡れた鴉の羽の如く、漆黒の髪。染めるといふ安易な手法に頼らず、生まれ持った素材で真つ向勝負するその気概。

陶磁の様に白い肌。人形の様だ。

すらりと長い指。しかし肌は荒れている、手入れは行っているであろうが……だがしかし！それは間違いなく家事を行っている証拠だと推測出来る。同級生のヤマンバは綺麗な手であったがデコ爪で吐き気を催す女としてのあり方！その点荒れた肌はマイナス点どころかプラス点を付けたい！

「私は」待ってないわ」海老川のつやのある声が響く。

病的に細くもなく、肥満を感じるほどに太くない脚。あの脚で踏みたい。マゾツ気は無い、多分無い、まあ少しはあるかも？覚悟しておけ。

最低限の筋肉、最低限の脂肪。クラスの病的に体重を気にしている同級生に比べればこの脚は最高である。個人的には全く魅力を感じないルーズソックスを履かずに黒のハイソックスを採用するセンスも採点基準に入りたい。

白い肌と黒のソックスで作り出されるコントラストはワンダーランド。

素晴らしい。間違いなく海老川椎奈は美少女だ。十分に視姦して

いると彼女は

「十分に堪能した？話を進めたいのだけれど……」と嫌そうな顔でこつちを睨んできた。ウヒ。流石は学校一の美少女、どんな表情も外れがないわあ、この辺も同級生のクソビッチ共に見習わせたいな！

「どうぞどうぞ。視姦しながらでも話は聞けます故」うん、思わず本音が出た。しかし流石は海老川椎奈。

「まあ、隠す気がないのは評価出来るわね」と寛大な言葉。素晴らしい。僕は語彙が貧困なので素晴らしいものを素晴らしいとは言えないが、逆にそれが彼女の評価としては適切な気がする。本当に素晴らしいものを前に人は言葉を無くす物だからだ！

「単刀直入に言うね。この世界はループしているの」うんうん。頷く。彼女のスカート丈も下品ではない。そもそもこの学校はデフォルト状態の制服で既に脚とスカートの黄金比を成立させているのだ、それを弄って調和を崩すクソビッチは理解出来ない。流石だ、美しい。海老川椎奈は本当に美しいのだ。普段他人の評価する良い物が僕にとっても良かった事が少ないのだが彼女については意見は一致させるしかないだろう……

「ねえ？聞いているの？井出藤江君？」うーん。ここからでは頭を下げて中身は見えないな、もうちょっと近寄るべきかな？ん？あれ？今聞き慣れない言葉が出た様な？

「ん？えっ？あ、ごめん。もう一度言ってくれる？」

「人の話はちゃんと聞きましょうよ」

「あ、違う違う。海老川さん。先生と母親以外の女性で僕の名前を言われるとは思わなかったから、それが僕の名前って分からなかったことについて謝ったんだ。決して君の話を聞いてない訳ではないよ」

「つまり？」頭を傾ける仕草もイイなあ……

「もう一度、僕の名前を言ってくれない？要するに世界がループしているって事は分かってるから」

「そ、そうなんだ……」苦笑する海老川の表情も良いな。彼女になら専属奴隷になってもいいな！

「ワンモアプリーズ」

「ええ、と井出藤江君、これでいい？」

「ええ、ありがとうございます！ありがとうございます！その蔑んだ表情も我々の業界ではご褒美です！」

「人選を間違ったかしら？」

「間違ってはいませんか？ただもう少し分析とその結論に至った根拠説明が欲しいと思いますね、個人的には」

「どういうこと？」

「ループと言っても複数の形体が有り得ます。単純な時間巻き戻し系、まあこれは本来永遠に気付かないです。だから考えられるの

は程度の差がありますが蓄積するタイプ、そして完全引継系。最後のは僕も気づけるので考えにくい。なので少しだけ引き継ぐタイプですね」

「……」押し黙る海老川さん。うん、しかめ面の彼女も良いな……

「それで、どういう証拠がその結論に至り、そしてよりにもよってテストでは低空飛行を続ける成績、そして容姿では井出菌という仮想細菌の病原体と言われる僕にそれを明かすのです？」

こういう超常現象ではイケメン主人公と、美少女ヒロインの出番でしょう？

美少女ヒロインの条件は海老川さん、あなたはどれだけ厳格な基準でも満たしていますが、僕はどんなに甘い基準でも主人公の条件は満たさないと思うのですけどねえ……」

「……その理由はこれよ！」彼女はプリント用紙をこちらに突きつけると次の様に説明を開始した。

「これはあなたの開設しているブログ」へえ。それを読みましたか……まあ、それなら分からないでもないねえ。10点。惜しい。

「邪気眼臭のする小説ですね。あ、邪気眼って分かります？ 厨二病は？」それを受け取り目を通す。確かに僕のブログだな。

「そのブログの管理人はE D G F。並び替えればイーディーフジエー、井出藤江^{いでふじえ}、となるわ」ふふん、良い所つくねえ。しかし……

「根拠としては弱いですね。管理人が僕としても、時間のループという衝撃的事実を告白する相手としては弱いでしょう？ 内容はただの厨二病的ファンタジー小説でしかない。そしてそれが本当に僕

という理由にも成らない」

「……他にもある。登場人物があなたのクラスメイトがモデルと考えられる。作中で美形と描写されている主人公のライバル……なんて名前だったか？」武麗舞^{ぶれいぶ}だな。最近の大人はアホだよな！。

「それで？」

「武勲麗かに、舞うブレイブってこれ明らかに特定個人よね？武勲麗^{ぶれいぶ}かって言葉無いわ。」

「作者が無知なだけじゃないかなー」だよー。ブレイブの親もアホなんだろうね。

「それも考えたけど、他の描写にはそういう表現がない。この著者は明確にわざと間違った表現をしている。それも名前の当て字としてこの表現が限定されている。偶然にしては重なりすぎだわ」その通り、それはメッセージだ。

「仮にそれが僕としても、だ。伝えたいなら弱いメッセージじゃないかな？永久に気付かない恐れもあるし」

「ブログ名が『抜け出したい、繰り返すヒビ』だったので検索にヒットしたのよ。そして読んでみればこの学校の人間にしか分からないメッセージが溢れている。そしてなにより確定的なのは……今日って何日？」13日ですね。

「5月の13日。確定的って何が？」

「今年の7月の20日にこの学校で起きる事故がフィクションと

して詳細に書かれていたわ。ループに気付かない人にとってはフィクションだけど、気付いた人間にはこれはノンフィクションになるわ。その事件を書けた、というのが未来情報を何らかの形で知りうる人間でしか考えにくい」へえ、それはループ前の記憶を詳細に憶えていなければ特定出来ないよね？前ループの事を知りうる手段がある人物で無ければ。

「それは予知ではなく妄想とは思えないの？もしくは僕がループさせている犯人とは考えない？危険じゃないかな？それだけではあまりにも軽率すぎるよ」

「それは、無い。そのブログにアップされている小説にはあなたが自身が書かれていた。それはループする前から居た登場人物だったから、と私は考えている。そしてその小説には登場しない、でもそこにいなければおかしい人物が13人居る。その中に私は含まないから残りは12人、ここに犯人が居ると考えている」へえ。

「何故、それが犯人なの？登場するのが犯人じゃないのかなあ？ミステリ的に」

「それはフェアな推理小説じゃないから。現実には登場しない奴が犯人というアンフェアなルールの事件ね」まあ、名探偵でないなら多少の拙さは眼を瞑るか……しかし、この事件を紐解く最初の言葉を言わなければ……これが永遠に続く円環だとしてもこちらの正体をバラす気はない。言えるのかな？

「ごめん、井出君。待たせたのはあなたじゃない、私よ。」遅れてゴメン”」

「遅い」

学校一の美少女を待たせた醜男に似合わない言葉を僕は吐いた。

ジャポニカ復讐帳

えびかわ　しいな　いで　ふじえ
海老川 椎奈は井出藤江の部屋に居た。

彼らの通う学校は全寮制であり、その学校は地方の僻地に計画的に街の必要な施設を全て一括して作られたものである。この街で使用する電力を供給する発電所もあり、その発電に必要な燃料、もしくは建築資材、消費する食料など貯蓄、もしくは生産する施設もある。計算ではこの街が外界から孤立しても数年まるまる生きていけるのである。

と言う訳でこの街の住民はまず街の外に出ることはなく過ごしている。外に出るのは長期休み、年始年末くらいである。その時には街の機能はほぼ停止するので皆が外に出払うしか無くなる。そういう時には維持に必要な最低限の人間だけが残るのである。

「そう言う訳でここはまるでループ時間にうってつけの環境なのよね」と海老川は言う。

「偶然、出来上がったという線は？」

「難しいわね。ここまで材料を揃えたのなら恐らく狙って作られた、というのが論理的よね」海老川の意見には僕も賛成である。探すコストと偶然出来上がる確率を考えると作った方が速い。

「それで、君の”前のループから引き継いだ物”は何？」海老川がわざわざ僕の部屋に来た理由はそれである。

彼女の話によれば、タイムトラベラーというのがこの世界に居るらしい。彼らは自分達の望む歴史を作り出した後、その世界を、歴

ノートを壁に叩き付ける海老川。

「なんてものを見せるのよ！アンタの虐められ日記なんか見る気ないわ！」

「ジョーク、ジョーク」

「重いよ。アンタのジョークは。リアルすぎてツッコミ所がないわ！」

「こつちだよ」

「今度こそ、本物よね？」いかん、外したか。

.....

1 - 5 / 1 5 : 3 連単 6 - 9 - 2

1 - 5 / 1 6 : 抜き打ちテスト教科書 P 1 2 1 1 5 6。 ロト 6 :

0 3 1 2 4 1 2 9 0 9 1 6

1 - 5 / 1 7 : はクソゲーなので買うな

.....

「..... 即物的よねえ」

「今のループの僕に言わないでくれ」しらんがな。

「..... 確かに正しい情報が書かれている。本物ね」

「他の皆も」ノートを引き継いでいるのかな？」

「そうとは限らないわ。記憶^{メンタル}だけを引き継ぐ人が居ても物質は引き継がない場合もある。でもそれでは肉体^{フィジカル}は真つ新なのを嫌って記憶以外の肉体を引き継ぐ人もいるわ」

「となると、中には厄介な物を引き継いだ人間もありうるって事かな？」

「ええ、体力を引き継いだ場合、ループ周回する度に強化されていくから早めに仕留めるべきとなる。しかし、時間ループという性質上”情報収集しないと動く相手に自分の存在を報せることになり、隠れられる事になる”のだから、動けばいいのか？動かない方が良いのか？悩ましいわね」

「記憶を引き継がないから次のターンで楽に仕留められると思うのだけど？」

「ええ、その通り。なので大体は精神継承と肉体継承を組み合わせせて配置する奴が多い。それにこの仕掛けは大きすぎる。下手するとこの時間の権力と結びついてかなり厄介になっっているかも……いや、そうなっていると考えた方が良く」眉をひそめる海老川。整った顔の彼女がそう言う表情をすると絵になる。観察しながら言葉を紡ぐ。

「しかし、僕のブログで候補は絞られて居るんだよね？7月20日の事件に登場しないけど、参加すべき連中は事件を避けることが出来たのだから」

「ええ。厄介なのは全員特に怪しい点が無いのよ」

「それじゃあ」嫌な予感がするな。

「あなたと私で連中を一人一人当たって行くしかない、と思うだけれど？」

僕と海老川の美醜コンビは目立ち過ぎるという気がするが？

「あなたの心配は杞憂よ。そもそも私が中途半端な時期に転校してきた時点で相手にバレバレよ」

もしかしてコイツ、かなりおつちよこちよいで迂闊な人間なのじゃないだろうか？これから早希のことを思ったら頭が痛くなってきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9729y/>

この世界はループしている！

2011年11月30日10時46分発行